



学校だより 穂波 平

令和7年度 第5号
富士宮市立富士宮第四中学校
静岡県富士宮市穂波町13-1
TEL26-2944/FAX22-1498

校訓
考える

学校教育目標 「志をもち、主体的に行動する生徒」

- 自ら学び、共に深め合う授業
- 自他の良さを認め、共に高め合う集団
- 自ら鍛え、共に磨き合う心と体
- 地域と共に生きる姿勢

「自分のやるべきことを見据え、志をもって前へ進もう」 校長 佐藤 哲洋

2学期の始まりにあたり、私が、この夏休みに感動し、勇気をもらったことを話します。それは、夏の全国高校野球大会に出場した、ある選手の話です。その選手は、岐阜県の県立岐阜商業高校硬式野球部の横山温大（よこやまはると）さんと言います。横山選手は、生まれつき左手の人差し指から小指がありません。左手の指がない人が野球をやるというのはとても困難なことです。野球には、両手でバットを持ってボールを「打つ」動作、グラブを使ってボールを「捕る」動作、そして、捕ったボールを「投げる」動作があり、その動作をするには、手や指が重要な役割を果たします。左手の指がない横山選手は、打つ時には、左手はバットに添えるだけでほぼ右手だけでバットを振ります。守る時は、右手にはめたグラブでボールを捕り、素早くグラブを左腕で抱えてボールを取り出して、右手でそのボールを投げます。左手の指がないことを感じさせないスムーズな動作でプレイしていました。しかも、甲子園という大舞台で、準決勝まで進出した強豪校で大活躍をしたのですから驚きです。横山選手のお母さんは「こんな体に産んでごめんなさい」と横山選手に言ったことがあるそうです。それを聞いた横山選手は「指がないこととお母さんに悲しい思いをさせたくない」と思って、好きな野球で活躍しようと努力したそうです。その努力は並大抵ではなかったと思います。その努力が高校最後の大会での大活躍に繋がったのです。横山選手の活躍を見て私は様々なことを考えさせられました。人間の無限の可能性の素晴らしさ、困難に立ち向かって努力を継続することの偉大さ、家族を思う気持ちや家族との絆の大切さ、支えてくれる人たちがいるという喜びと感謝等々。

私たちの生活はいつもいいことばかりではありません。苦しいこと、辛いこと、悲しいこともあります。でも、自分の可能性を信じて、前向きに努力して生きていくことが大切です。不平不満を言っても、希望ある未来を切り拓くことはできません。左手にハンディを背負った横山選手の活躍を目の当たりにして「今、自分がやるべきことを見据え、志、目標をもって前へ進もう」とあらためて考えた夏でした。

33日間、皆さんにとってどのような夏休みだったでしょうか。今日から2学期です。2学期は四魂祭文化の部、体育の部という四中が一丸となって取り組む大きな行事があります。また、3年生は進路決定という大切な時期を迎えます。連日熱中症警戒アラートが発令され、まだまだ暑い日が続きそうですが、きちんと健康管理をしてこれまで以上に充実した毎日を過ごしましょう。

2学期もよろしくお願いします。

（令和7年8月26日 第2学期始業式より）

教職員危機管理研修 避難訓練

8月26日に富士宮消防署職員を招いて、教職員を対象とした危機管理研修を実施しました。今回の研修では、緊急時における初動対応や児童生徒の安全確保のための行動指針について確認し、実際の事例をもとに、教職員を生徒役・教員役に分担し、シミュレーションを行い、対応力の向上を図りました。また、8月28日、火災を想定した避難訓練を実施しました。児童生徒は、事前に避難経路や避難時の注意点を確認したうえで、教職員の指示に従い、落ち着いて迅速に避難することができました。

今後も定期的な研修・訓練を通じて、学校全体の安全体制の強化に努めてまいります。



表彰集会

8月29日、本校では中体連大会および各種コンクールにおける成果を讃える表彰集会を行いました。6月21日から始まった今年度の大会・コンクールでは、目標を見事に達成した部活動があれば、あと一步のところまで悔し涙を流した部もありました。しかし、どの部の生徒も、仲間とともに頑張ることができる喜び、そして他校との真剣勝負を楽しむ姿が印象的でした。この経験を通して培った力は、今後の学校生活や将来に必ず生かされるものです。最後まであきらめず、自分の夢に向かって挑戦し続ける姿勢を大切にしてほしいと願っています。

なお、今年度の中体連は、10月5日の相撲大会、11月8日の駅伝大会を残すのみとなりました。引き続き、温かいご声援をよろしくお願いいたします。



地域行事へのご協力、ありがとうございました

夏休み期間中、各地区において様々な地域行事が企画され、四中生も夏祭りのボランティア活動や宮おどりなど、多くの行事に参加させていただきました。地域の皆様の温かいご支援とご協力のおかげで、生徒たちは貴重な体験を通じて、地域とのつながりの大切さを学ぶことができました。今後も、生徒たちが「地域の一員」としての自覚をもち、「中学生だからこそできること」を考えながら、地域に貢献できる存在となれるよう、学校としても支援してまいります。

引き続き、地域行事への参加の機会をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。